

# 地域で特色ある学校づくり

## 学校・家庭・地域で目標を共有

**問** コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とはどのようなものか。学校評議員制度との違いを聞く。

**答** コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、一体となつて子どもたちを育む「地域とともにある学校」のことである。

これまでの学校評議員制度は、校長の求めにより学校運営に意見を述べるに留まっていたが、コミュニティ・



地域とともにある学校を目指して

スクールは、委員に選ばれた地域・保護者の代表が一定の権限を持ち、学校運営の基本方針の承認等にも関わる制度である。

本市では、平成29年度からモデル校を指定

## 一人暮らし高齢者 支える体制を強化 多くの目で見守り支援

**問** 一人暮らし高齢者の現状と施策を聞く。

**答** 平成27年の国勢調査によると、本市の一人暮らし高齢者は1万5511人で、22年の調査時に比べて約3500人多くなっている。

一人暮らし高齢者に対しては、緊急通報発

信装置の貸与や週1回の保健飲料の手渡しによる安否確認、台帳への登録に基づく民生委員等の見守り活動に加えて、郵便局、新聞販売店、配食業者などと順次協定を締結することにより、複層的な見守り支援を行っている。

また、30年4月から地域総合支援センターを市内6カ所に設置し、高齢者を含む要支援者を地域で支えるための体制強化を図った。さらに、9月からは敬老金支給事業を敬



みんなの給食(魚住東コミセン)

し、空き教室を活用して地域の人と児童が交流できるようにするなど、まちづくり協議会と連携しながら、地域の実情を踏まえた特色

## 不育症治療

### 費用助成を周知

### 相談窓口も設置へ

**問** 2回以上連続して流産・死産となった場合は不育症と診断されるが、治療費の助成制度など、市の取り組み状況について聞く。

**答** 本市は、不育症の早期受診と治療を推進するために、平成30年4月から医療保険が適用されない検査や治療費の一部を助成する治療

老見守り訪問として見直したほか、閉じこもりや孤食を予防し、地域で楽しく給食を食べてもらおう「みんなの給食プロジェクト」を試験的に実施しているところだ。

ある学校づくりを進めてきた。今後は、モデル校での成果と課題を検証し、31年度以降の市内全校実施に向け取り組んでいきたい。

## 市民病院の老朽化 改修や建て替え含め 今後の在り方を検討

など綿密な計画が必要とされる。市としては第3期中期目標を推進していく中で、市民病院と十分な連携を図り、建て替えを含め、地域の中核病院としての今後の在り方を検討していきたい。

なお、現状の施設は手狭であるが、車椅子を利用する患者など一人一人の状況を踏まえ、可能な限り病床を調整するとともに、計画的な改修を行い、患者やその家族が快適に利用できるような必要な環境整備に努めていく。

**問** 市立市民病院は建築から27年が経過し、老朽化が進み空調設備等の修繕が多く、施設も手狭である。第3期中期目標では高度な総合医療の推進を掲げているため、早急に建て替えが必要ではないか。

**答** 一般的に総合病院の建て替えは、築40年前後と言われているが、大規模改修や建て替えには多額の費用がかかり、求められる医療機能や設備の充実に係る検討



建築から27年の市民病院

## 都市基盤整備の取り組み

### 公有財産を有効活用

### 民間活力の導入も検討

**問** 都市基盤である都市計画道路や下水道事業の現状と、公有財産の活用について聞く。

**答** 本市の都市計画道路は51路線、約105kmの計画が決定されており、平成30年6月時点で63・6%の整備率となっている。

市内の下水処理場を管路でつなぐ下水道のネットワーク化事業は、100億円超の費用がかかるため、当面は着手せず、処理区の再編や既存施設の活用により対応する。

市の公有財産は、公共施設適正化基本計画

などに基づき有効活用を図っており、市営住宅・斎場・少年自然の家などは民間活力の導入を検討している。現在、市民会館など36施設に指定管理者制度を導入し、サービス向上に加え、年間約2億円の経費削減の効果も上げている。また、未活用の市有地は、積極的な売却と貸付を進めた結果、4年間で約16億円の売却収入を得ているところだ。

## 意見書を提出

## 請願

- ▽不採択となった請願△
- 消費税10%の増税中止、インボイス導入の撤回、「生活費非課税」「応能負担」の税制実現を求める請願
- 所得税法第56条廃止を求める請願
- 学校給食の無償化を求める請願
- 「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を活用し学校の特別教室・体育館にエアコンの設置を求める請願
- 議会本来の役割を果たすために「議員間討議」の速やかな実施を求める請願

- 意見書1件を可決し、政府・関係機関に送付しました。以下はその要旨です。
- ◎防災・減災に資するインフラ整備促進のための財源確保等具体的な対策を求める意見書
  - 防災・減災対策をより一層強力に進めるために、国において、次の事項に取り組みられるよう強く要望する。
  - 1 南海トラフ地震の津波に備えた事前防災の観点から、対策に必要な予算措置を講ずること。
  - 2 防災事業を計画的に実施していくため、治水対策、高潮対策、土砂災害対策、道路防災対策等に必要な予算措置を講ずること。
  - 3 災害時の機能保全、安全性確保の観点から、社会基盤施設の老朽化対策や適正な維持管理に必要な予算措置を講ずること。
  - 4 救援活動への支障や経済活動の機能不全などを回避するために、必要となる交通・運輸基盤の整備を促進すること。

## 議員ふもやま話

議員になり長い年月がたちました。実に多くの方々を知り合い、相談に乗ってもらいました。そんな私も現在の任期をもって議員を引退しようとしています。「元氣なうちに辞めたい」私の願いです。

市民から見れば、議員の活動は一年を通して同じような繰り返しに見えるかもしれませんが、でも誓って言うことは、同じ議会は一度もなかったということ。何度も眠れない日が続く時がありました。決断を求められる時もありました。いたずらに時間が過ぎていく時もありました。でも救いは、私には多くの支援者がいることです。多くの方々に迷惑をかけてきまして。本当に「感謝」「感謝」です。ありがとうございます。感謝致します。